

令和6年度 協議会総会を開催（5月24日）



量子科学技術研究開発機構 那珂フュージョン科学技術研究所 花田所長のご講演状況

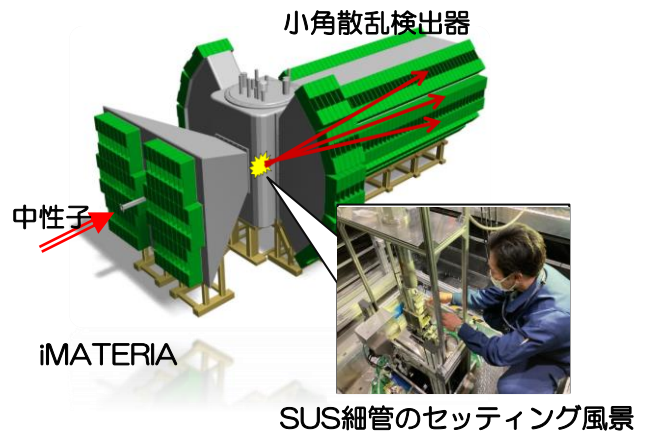
5月24日13時30分から、ひたちなかテクノセンター研修ホールにて令和6年度いばらき量子線利活用協議会の総会が開催されました。

冒頭、須賀会長(株)NAT代表取締役社長)より「我々中小企業を取り巻く内外の環境がこれまでにない多くの不確実性に直面している中、会員の皆様が事業継続され、協議会も214社まで発展した。J-PARC利用促進に係る支援とJ-PARCの周辺機器の開発に係る支援、及び量子線技術を活用した新事業・新ビジネスへの参入支援の3本柱で活動に取り組み、協議会をさらに活発化させたい」と力強い開会挨拶がありました。さらに、県科学技術振興課/小貫課長から「本県は量子線の施設が多く立地している全国でも稀有な地域であり、J-PARCに有する県の装置や実施中の量子線に関する人材育成事業を是非活用願いたい」との挨拶をいただきました。

その後報告に移り、事務局 上村から昨年度の活動報告や実績統計の説明の後、本年度も引き続き会員訪問やマッチングイベントを通して量子線の利活用支援を図るため、ご支援とご協力をお願いしました。

続いて、J-PARCを活用した事例「医療用SUS細管内面のPTFEコーティング観察の試み」の報告が(株)沢平 江口氏からありました。試験ではコーティング由来の散乱ピークを解析することにより、PTFEコートを実験的に比較できる可能性があることがわかりました。単に試験結果の報告だけでなく、実験までの流れや手続きの紹介もあり、J-PARCでの試験の流れをよく理解することができたと出席者からの声をいただきました。

次に、「フュージョンエネルギー開発の現状と地元企業の貢献」と題して、(国研)量子科学技術研究開発機構 那珂フュージョン科学技術研究所 花田所長よりご講演をいただきました。



SUS細管のセッティング風景

事例 医療用SUS細管内面のPTFEコーティング観察の試み
(株)沢平)

フュージョンエネルギーの発電原理から、開発戦略、開発の現状、今後の計画、並びに地元企業の貢献の具体例と今後の期待まで、幅広い話題について話され非常に興味深い講演でした。

最後に、特別研修として茨城大学・CROSS*小泉教授が「茨城県中性子ビームライン人材育成事業の試み」と題して、中性子活用の特長、茨城県材料構造解析装置 iMATERIAの紹介、県内企業の装置開発への参加状況、並びに県量子線人材育成事業の一環として実施した茨城県鉄構工業協同組合のマイクロ探傷試験の試みについて講演しました。

今回は会員等31社52名(県、ひたちなかテクノセンター等の関係者を除く)が参加し、発表・講演・研修とも活発な質疑応答があり、内容も好評でした。研修の今後のスケジュールはメルマガ等でご連絡しますので、是非ご参加をお願いします。

*CROSS: (一財)総合科学研究機構